Say it and do

そのまんま宮崎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
Ｓａｙ ｉｔ ａｎｄ ｄｏ

【Ｎコード】
Ｎ２４５８Ｚ

【作者名】
そのまんま宮崎

【あらすじ】
アニメ銀魂　総集編にて銀時たちが考え出した新しい銀魂を連載小説として再現！！放送時には登場していなかったキャラクターも出してオールキャラで物語を進めていきたいと思いま～す！！

第零訓　お前の父ちゃん××（前書き）

これを読みながら『お前の父ちゃん××（チョメチョメ）』を聞いてみて下さい！！

聞きながらだと分かりやすいと思いますので！！

第零訓　お前の父ちゃん××

チョメチョメ
××〜
チョメチョメ
××〜
チョメチョメ
××〜
チョメチョメ
××〜

チョ〜メチョメ
××〜　それは危険なインビテーション
チョ〜メチョメ
××〜　それは素敵なイントネーション　ｏｈｏｈ！！

大人の事情〜　それで結局××〜（チョメチョメ）
放送コード〜　だから結局××〜（チョメチョメ）
言いたい！！　でも言えな〜い　言ったところで××〜（チョメチョメ）
知りたい！！　でも知らな〜い　それが秘密の〜　きっと内緒よ〜

み〜んな　知ってるはずなのに〜
み〜んな　しっとり目をそらす〜
み〜んな　言ってるはずなのに〜
出るとこ出ると口つぐむ〜

チョメチョメ
××〜
チョメチョメ
××〜

チョ〜メチョメ
××〜　それは無限のイマジネーション
チョ〜メチョメ
××〜　それは伏字のイリュージョン　ｏｈｏｈ！！

大人の都合〜　それで結局××〜（チョメチョメ）
楽しいやりとり〜　だけど結局××〜（チョメチョメ）
見せたい！！　でも見せな〜い　見せたところで××〜（チョメチョメ）

あげたい！！　でもあげな～い　私の秘密～　あなたにあげた～い

わ～たし知りたいはずな～のに～　あ～なたしっとりはぐら～かす～

わ～たし言いたいはずな～のに～　あなたの前じゃ恥ずかしい～

チョメチョメ
×××～
チョメチョメ
×××～

チョ～メチョメ
×××～　私無限のイマジネーション
チョ～メチョメ
×××～　あなたの前じゃノーリア～クション　ｏｈｏｈ！！

チョ～メチョメ
×××～　それは魅惑のインビテーション
チョ～メチョメ
×××～　それは秘密のイントネーション　ｏｈｏｈ！！　ｏｈｏｈ

！！　ｏｈｏｈ！！

ある日、新しいどんな小説を書こうかな～って思ってた時に、あることを思いついたんですよ。

アニメ銀魂で数回あった総集編。

総集編の時に銀時たちは色々な物語を作って結局は言っただけ～みたいなカンジになってます。

何か折角、物語を作ったのに勿体無い（もったいな）！！と思ったわけです。

この小説のタイトル『Ｓａｙ　ｉｔ　ａｎｄ　ｄｏ』は「言う、そ

して、する」みたいなカンジで訳されます

すなわち、有言実行！！

なので、そうだ！！京都に行こう！！的なノリで、そうだ！！小説を書こう！！と決意したんです。

ですが、少し映像が流れただけなので設定が全くもってゼロ！！

なので結構、思ってたよりキツかったのですが何とか出来ました～！！

あと、作中で例えば”神ナレ”のような略語が出てきます。

この場合は、”神楽のナレーション”の略です。

”ナレーション”の”ナレ”の前にキャラクターの名前の一文字か二文字付きます。

なので多分、分かると思いますので、ご安心下さい。

※注意　少しは原作と同じ設定のこともあります。

が、何せアニメの中で放送されたオリジナルです。

ですから設定が違うこともあるわけです。

その辺を気にする方は気を付けて下さい。

第零訓　お前の父ちゃん××（後書き）

次回は『チョメ公なんざクソくらえ！』で～す。

神楽「有言実行とかカッコよく言ってるけど、ただの手抜きアル。」
新八「ちょっ神楽ちゃん！！」
作者「１作目連載中だからオリジナルストーリーだとキツイんです・・・」
銀時「手抜きっていうところは訂正しねェんだ？（ニヤリ」
作者「・・・・・・手抜きじゃないです。（汗」
新八「作者、嘘下手すぎるでしょ。」
作者「・・・・・・」
神楽「黙ったってことは手抜きって認めたアル！！（嬉」
銀時「そうだなァ。（ニヤリ」
作者「次話も注意書きみたいなものですが、お楽しみに！！」
新八「誤魔化した！！」

第壱訓　チョメ公なんざクソくらえ！（前書き）

今回は『チョメ公なんざクソくらえ！』を聞いてみて下さい！！

今回も注意書きみたいなことです・・・

第壱訓　チョメ公なんざクソくらえ！

チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！
ポリ！　ポリポリポリポリ　く～らえ～！
チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！
ポリ！　ポリポリポリポリ！　ポリポリ！

偉そうに～正義かざし～、でかいツラし～て街を歩く
建前(たてま～え)で～すべて語り～、真実に口を閉ざす～
優しそうに～カツ丼かざし～、君の自白～を迫(せ～ま)～る
暇そうに～背中伸～ばし～、目をあけて眠(ね～む)～る～

気をつけろ～！　善人ぶ～って～（君に近づく）
気をつけろ～！　親切ぶ～って～（君を騙す）
信じるな～！　その笑顔は～造ら～れた仮面(か～めん)

そーれーが・・・・・・・・
チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！
ポリ！　ポリポリポリポリ　くらえ～！
チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！
ポリ！　ポリポリポリポリ！　ポリポリ！

生意気に～男ぶ～って～、腰のモノふ～りか～ざ～す
規則だ～けで～モノを語り～、言葉など通じない～
弱い奴を～常(つね)に狙い～、笑顔～で～切符(き～っぷ)を切る～
全員が～同じ服で～、見分けなんてつきやしない～

気をつけろ～！　法律か～ざし～（君に近づく）
気をつけろ～！　×××××で～（君を叩く）

信じるな～！　×××××って～な～ん～だ～

そーれーが・・・・・・・・

チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！

ポリ！　ポリポリポリポリ　くらえ～！

チョメ！　チョメチョメチョメ　ＫＯＨ～！

ポリ！　ポリポリポリポリポリポリポリ！　ポリポリ！

チョメ公なんざク～ソくらえ～！

チョメ公なんざク～ソくらえ～！

チョメ公なんざクソくらえ～！　ＷＯＷ！

『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ娘。　銀魂篇』突入に関する注意事項

作者、そのまんま宮崎は神楽が大好きです！！

ですが、神楽が総集編で言っていた物語を書くには神楽たちの夜兎族という設定が厄介なんです。

なので、神楽たちが夜兎族という設定は頭から一旦、削除してください。

ほんとに、すいません。＜（｜　｜；）＞

それでも、構わないという方のみどうぞ・・・

第壱訓　チョメ公なんざクソくらえ！（後書き）

銀時「いつになったら俺たち出てくるんだよ？」
作者「次の話から、きちんと物語に入いるので出てきますよ！」
神楽「また注意書きとお通ちゃんの曲しか書いてないアル。」
新八「お通ちゃんサイコー！！」
作者「オタクは黙ってろ！！」
新八「・・・・・・」
銀時「次話での俺の活躍、楽しみにしてくれよ！！」（決まった！！）
作者「すいません。次話からは神楽がメインに・・・」
銀時「・・・・・・楽しみにしててくれよ！！」
新八「丸々なかったことにしたよ、この人。」
作者「では、次話をお楽しみに！！」

予告は予告であって本編ではない（前書き）

神楽「今回は、予告みたいアルヨ。」
新八「あぁ、それは忘れている読者の人のために予告した方がいいってなったんだよ。」
銀時「それ作者の嘘だぞ。」
新八「えっ！？マジで！？」
銀時「実は、まだ大まかなあらすじしかできてないから・・・」
作者「ちょっ銀さん！！前書きを読んでくれる人もいるんですから、やめてくださいよっ！！後で、パフェを奢(おご)りますので」
銀時「忘れた読者のために予告をすることにしましたァ！！是非、読んでください！！」
神楽「私も黙ってるから特上ステーキ、奢れヨ。」
作者「えっ・・・えっと～。（汗」
新八「パフェに釣られたよ、この人。神楽ちゃんもだよ。作者、困ってるじゃん。では、忘れた方は是非、読んでください。」

予告は予告であって本編ではない

新八「いやぁ、そのまま宮崎の小説もとうとう2作目に突入ですね。」

銀時「突入っていうか1作目がまだ終わってないのを何かうまいこと誤魔化してなだれ込んじまったァ！！って感じだけどな！！」

神楽「そうアル！！　まだ先っぽだけアル。」

新八「えっ？　コレ、2作目、安泰ってわけじゃないの？」

銀時「バカ言ってんじゃねェよ。　1作目が何度、終了の危機にさらされたと思ってんの！！」

神楽「低評価ポイント、低お気に入り登録件数、苦情殺到。」

新八「ホント、よく打ち切りにならなかったですよね。」

銀時「連載始まる前はさァ、これはぁ、数字の取れる作品だぁ。とか持ち上げといて、いざ蓋を開けてみて結果が出ないとなると手の平返しだよォ！！」

神楽「大人は皆汚いアル！！　大人なんか嫌いネ！！」

新八「更新時間の移動の時も決断早かったですねぇ。」

銀時「あっという間だったなァ。　何が、ジャンプ読者層的には読みやすい時間になったんじゃないのぉ？だよ！！　どう見ても都落

ちだよ！！」

神楽「このまま、どんどん時間が繰り上げられてってレディース４の放送時間と重(かさ)なっちゃうかと思ったアル。」

新八「そういえば、お通ちゃんの歌もクレームで連載禁止下になっちゃったんだよなぁ。」

銀時「クレーム殺到して、そのまんま宮崎降りたら即小説終了だよ！！　数字上げようとして、この小説にはダイエット効果がありまーす！！とか言ってバレたりしたら一発だよ！！」

神楽「オォー！！　あるアル！！」

新八「ねぇよ！！　小説読んでてダイエットとか！！」

神楽「そのまんま宮崎(この作者)は胃が痛いって言って、みるみる痩せたアル。」

新八「いや、それダイエットじゃないから。　ていうか銀さん驚かさないで下さいよ。　これから2作目が始まるって時に。」

銀時「バカヤロウ！！　そんな時だからこそ、油断するな！！って言ってんだよ！！　これで、2作目は大丈夫ゥ！！とか言って安心してると半年で打ち切られっぞ！！」

新八「えっ！？　マジで！？」

神楽「銀ちゃん、この小説終わっちゃうアルか？」

銀時「そうならないために、ここでやるべきことをやっておく必要がある！！」

新八「やるべき」

神楽「こと・・・」

銀時「それは！！」

神楽&新八「「それは・・・」」

銀時「それは、ＣＭの後で。」

神楽&新八「「なぁぁぁぁぁぁ！！」」

～ＣＭスタート～

パチパチパチパチパチ

『世界の銀魂料理ショー』

「ハハハハッ」

拍手と共に白いシャツを肘(ひじ)まで腕捲(まく)りして青いエプロンをした土方が笑顔で手を振りながら登場

「銀魂料理ショーへようこそ。　さぁ今日は、とびっきりの料理を紹介だ！！　まず初めにマヨネーズを用意する。　それを皿に盛り付ける。」

「フッ、アーン」

お皿にマヨネーズを1本分、盛り付け土方はそのマヨネーズの味見をする

アハハハハ

「うん～ん～。　スティーブ、スティーブ分かったよ。　味見ばっかりしてないで早く進めろって言うんだろ。」

アハハハハ

「この上にさらにマヨネーズをかけて～、出来上がりだ。」

土方はマヨネーズの1本分をお皿に盛り付けられているマヨネーズの上にかける

オオー！！　ウワー！！　ウオー！！

「銀魂料理ショー、また来週～。」

土方は笑顔で手を振りながら去って行く

～ＣＭ終了～

銀時「そのまんま宮崎の小説が2作目突入に際してやっておく必要があるやるべきこと・・・」

暗がりに銀時にスポットライトがあたり銀時の後姿が見える

新八「やるべき・・・（汗」

神楽「こと・・・（汗」

銀時「それは・・・」

神楽&新八「「それは・・・（汗」」

銀時「それは・・・・・・テコ入れだァァァァァァ！！」

銀時は勢いよく振り返り右手の人差し指でどこかを差しながら言う

銀時「テコ入れとは、それは文字通りテコを入れることである。傾いた小説やスタートダッシュに失敗した小説にテコを入れ何とか盛り返そうとあれこれ変更を加えることである。　ただし、その結果、現場が混乱したりライターがふてくされたりテコ入れ自体が失敗だったり何をしても時すでに遅かったりすることがままあるため成果が上がるという事例は稀有であると言っていいだろう。　というわけなんで、これからの2作目をどうしていくべきか、お前等、何かいい方法があったら言ってみろィ。」

新八「まぁ、手っ取り早くお手軽に変化をつけるにはタイトル変え

たりするのが普通っすよね。　例えば～銀魂２とか、銀魂～ズとか、ＺとかＸとか、Ｓｅｃｏｎｄ　Ｓｅａｓｏｎとかもありますよね。」

新八が右手の人差し指を立てながら言う

神楽「ＧとかＶとか∀（ターンエー）とか何か意味あるアルか？」

新八「うん。　Ｖはありだと思うよ。」

銀時「いっそのこと最終回っぽく悲壮感で煽（あお）るってのはどうだ？　さらばとか、永遠（とわ）にとか、完結編とか付けてさァ。　なァに、また、新たなる旅立ちィとか言って仕切り直しゃいいんだ。」

新八「ちょっと、銀さん！！そこまだ、もめてるんだからマズいですよぉ！！」

神楽「いっそのことマッキーに主題歌、歌ってもらうアル！！」

新八「だから危ないってぇぇぇ！！　てか、小説で主題歌とかないから！！」

銀時「じゃあ、危ない繋がりで、もっと～とか、またまた～とかは？」

神楽「それなら、たまたま銀魂～の方が語呂（ごろ）がいいアル。」

新八「意味分かんねぇよ！！」

銀時「んァァァァ。まぁ、今時タイトル変えたぐらいで読者も簡単に騙されねェか。　やるなら、もっと徹底的にやらねェとな。　主

役ロボを変えるとか、新兵器を装着するとか、分かりやすいパワーアップをだなァ。」

新八「メカもロボもいませんよ、この小説。」

銀時「あっ！！」

新八「あっ！！じゃねぇよ！！　まったく～！！　しょうがないな～。　ロボじゃなくて主人公を変えたほうがいいんじゃないのぉ？」

銀時「マジでか！？」

神楽「フッフッフッフッ。」

新八「神楽ちゃん？」

神楽「主役交代いいじゃないかい。」

銀時＆新八「「えっ！？」」

神楽「だったら、次話から主役はアタイだヨ！！　これから、この小説は、こんな路線で突っ走るアル！！」

～神楽の頭の中のイメージ～

カーン　カーン　カーン（鐘の音）

真っ白な教会

新八は白のタキシードと赤の蝶ネクタイ
神楽は白のウエディングドレス
新八は神楽にダイヤのついた指輪をはめ
神ナレ「男は永遠(えいえん)の愛を誓い
神楽は頬を少し赤らめ嬉しそうに指輪を眺める
女はその愛に応えることを誓った」

神ナレ「が、その時!!」
パーン!!
神ナレ「一発の銃声が!!」
ハタ皇子が銃をこちらに向けている
パリンッ
メガネが新八から外(はず)れ飛び割れた
『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ娘。　銀魂』
曇り空

中国風の建物

道には酒瓶を持って倒れている者、布と木の棒で作った様な小さなお店を開いている者、その店を見ている者がいる

道を行き交う数人の人

その中に長袖のチャイナ服を着て紫色の布を頭に巻き寒そうに歩いている少女、神楽

神楽が歩いている反対方向から傘を持ってスーツを着た銀髪の男、銀時

神ナレ「偶然の出会い」

2人は見つめ合う

神ナレ「恋に落ちる2人」

銀時は神楽に傘を差し出す

ボロボロの家

つぎはぎのある短い袖のチャイナ服を着た神楽は洗濯

和洋折衷の着流しを着た銀時は畳の上で傘を作っている

神ナレ「そして、ささやかな生活」

銀時は神楽に声をかける

神楽は汗を右手で拭い笑顔で銀時の方に振り向く

神ナレ「が、その時！！

一杯のかけそばが！！」

２人はかけそばそれぞれ１つずつ頼んでいた

厨房にいるコック帽子を被ったエリザベスはカウンターのお皿を片付けようとしている

腰にエプロンを巻いた桂は神楽のかけそばを片付けようとしている

銀時「まだ、食べてるでしょーが！！」

戦争用の飛行機が何台も飛んでおり爆弾を沢山、落としている

ヒューーー　（飛行機の音）

神ナレ「時代の波が２人を引き裂いていく」

２人は手を繋いでいたが逃げようとする人々の人ごみに流され離れ

そうになる

離れないように必死に手をのばすが・・・

離れてしまい

銀時は人々が行こうとする方向へ

神楽はその反対方向へ

2人はそれでも必死で手を伸ばした

銀時「神楽ァァァァァァァ!!」

神楽「銀ちゃーーーーん!!（涙」

逃げようとしている人々が次々押し寄せ銀時と神楽は反対方向に流されながらも手を必死で伸ばしているが流され姿がほとんど見えなくなり・・・

神ナレ「そして舞台は〈宇宙（そら）〉へ」

宇宙で戦っているいくつもの宇宙戦艦

キャサリンが搭乗している緑色で猫耳のあるモビルスーツが剣（ビームサーベル）を振りかざす

神楽が搭乗している赤いモビルスーツはそれを剣(ビームサーベル)で受け止める

神ナレ「何を企むかキャサリン」

キャサリン「このキャサリン様が粛清(しゅくせい)すると言ってんだろうがァ！！」

神ナレ「そして寺田屋お登勢の地球壊滅作戦とは！！」

お登勢がシャアみたいな服を着て沢山の宇宙戦艦を従えている！！

神ナレ「運命に翻弄される少女」

神ナレ「大江戸小説界最高のスタッフを結集して描く一大大河小説」

監督　そのまんま宮崎　（「ゲロ戦記」）

脚本　抜作　健太　（「エイリアンＶＳヤクザ」）

音楽　久右　丈　（「となりのペドロ」）

原作　著田　互斯子（「渡る世間は鬼しかいねえコノヤロー」）

神ナレ「銀魂　ワンス・アポン・ア・タイム・イン・チャイナ娘。
　君はまだ本当の銀魂を知らない」

～イメージ終了～

予告は予告であって本編ではない（後書き）

神楽「ウフー！！感動アルぅぅぅ！！（涙」
お登勢「勝手に人のこと使ってんじゃないよぉ。」
新八「いつの間に。」
お登勢「店も小説も同じことだよぉ。客の欲しがっているモノを提供する。今、足りないモノを補う。」
新八「足りないモノ？を」
キャサリン「爽ヤカナ、オ色気ガ足りナイッテコトデスヨ。」
お登勢「夢を与え幸せを与える、そういう作品になんないとぉ。」
お登勢＆キャサリン「「ふたりは？タマキュア　Ｓｉｌｖｅｒ　Ｓｏｕｌ」」
万事屋３人「「「オエー（嘔吐）」」」
銀時「俺達を吐き殺す気かァ！！夢を与えるより恐怖と絶望を与えてるじゃねェか！！」
作者「・・・安心してください、銀さん。連載には・・・オエー」
新八「ちょっと、作者まで嘔吐してどうすんですか！！」
作者「小説になったらと考えるだけでオエー」
銀時「吐いてばっかで全然、進まねェだろうが！！」
作者「すいません・・・連載にはならないので安心してください。」
キャサリン「オ登勢サンノ言ウコトガ聞ケナイノカ！！」
お登勢「キャサリン、そこまでにしな！！客の欲しがっているモノを提供するのは大事だけど作者がいなけれりゃ話にならないからねぇ。」
作者「お登勢さん・・・ありがとうございます。では、次話からは神楽のオリジナルストーリーです。お楽しみに！！」
お登勢さん「変わりに銀時の溜めてる家賃、払ってもらうからねぇ。」
作者「えっ・・・」

万事屋3人「「「お楽しみに！！」」」
作者「えぇぇぇぇぇぇ！！」

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2458z/

Say it and do

2011年12月11日16時52分発行